

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例 【三郷市教育委員会】

【社会】 学習指導 要領の内容		設問別・観点別正答率							県 正答率	本校 正答率	
		問題番号	通番	評価の観点				記 述 式			
				1	2	3	4				
3.4年	(1)	1	(1)	1		○	○			56.5	70.4
3.4年	(1)		(2)	2		○	○			91.1	98.1
3.4年	(1)		(3)	3				○		75.5	92.6
3.4年	(4)	2	(1)	4			○	○		88.4	88.9
3.4年	(4)		(2)	5		○		○		87.2	85.2
3.4年	(4)		(3)	6				○		94.5	98.1
3.4年	(3)	3	(1)	7			○			61.1	51.9
3.4年	(3)		(2)	8				○		75.2	70.4
3.4年	(3)		(3)	9	○	○			☆	75.9	83.3
3.4年	(2)	4	(1)	10		○				88.0	88.9
3.4年	(2)		(2)	11			○			85.3	88.9
3.4年	(2)		(3)	12			○			80.0	74.1
3.4年	(5)	5	(1)	13		○		○		67.7	88.9
3.4年	(5)		(2)	14		○		○		83.2	83.3
3.4年	(5)		(3)	15	○	○				85.5	90.7
3.4年	(6)	6	(1)	16				○		51.9	83.3
3.4年	(6)		(2)	17			○	○	☆	47.9	81.5
3.4年	(6)		(3)	18	○	○				84.3	87.0
3.4年	(6)		(4)	19			○			75.9	79.6
3.4年	(6)		(5)	20				○		76.7	75.9

課題が見られる内容と対策

県平均を下回った3- (1)、4- (3)はグラフや表の読み取りに関する問題である。算数の1-4「折れ線グラフから変化の特徴を読み取る」や1-5「二次元表に表された数値の意味の理解」でも県の平均を下回っている。

今後、社会科の学習において、グラフや表などから様々な情報を読み取り、自分の言葉で表現し発表する活動を一層重視する必要がある。

その際、

- ・表題、単位の確認
 - ・一番大きな数字、一番小さな数字の確認
 - ・全体傾向（増えているか減っているか）や大きく変わっているポイント（急な増加や減少）（増加から減少に変わる）などをつかむ
- といったことを、ポイントとして指導する。

成果が見られる内容と効果的取組

1- (1) (2) (3) 「できあがった地図」

3年生「学校のまわりの様子」で学習する主な地図記号、八方位をその後の単元においても、繰り返し指導することで、良い結果が表れたと考える。3年生においては、「たんけん三郷市」「米を作る仕事」「こまつなを作る仕事」「買い物調べをしよう」で、また、4年生においては「古い道具と昔の暮らし」「受けつがれる祭り」「ふるさと三郷をひらく」「わたしたちの県の様子」「世界とのつながりとこれからの埼玉県」で、重点的に扱った。また、授業中の地図帳の利用も積極的に行っており、その中で、地図を読むときの約束事（方位、縮尺、土地の高さ、絵記号、地図記号）を身につけてきた。

3- (3) 「ごみを減らす買い物の工夫」

4年生「ごみをへらす」において、児童一人一人にゴミを減らすために自分たちにできることを考えさせ、まとめた内容の発表会を行っている。また、学校全体で、アルミ缶、エコキャップ、プルトップ等の回収を行ったり、資源回収日には環境実践日として児童も参加したりするなど、日頃からゴミを減らすことへの関心を高めていることも、良い結果につながった要因といえる。

5－（１）（２）（３）「昔の道具とくらし」

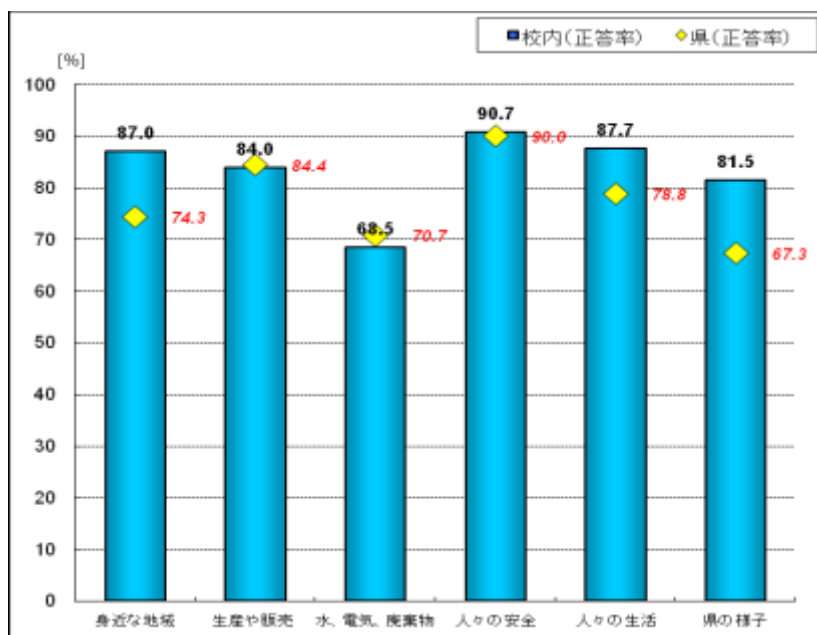
4年生「古い道具と昔のくらし」導入時において、校内郷土資料室に少ないながらも保管している古い道具に触れる体験をし、興味関心を高めてから学習に入るよう配慮している。さらに多くの道具にふれさせることのできる郷土資料館等が本校の学区域にはないため、「古い道具をあつめよう」では、家の人や地域の方々に協力して戴き、児童が古い道具の紹介カードを家庭や地域で集めてくるようにしている。また、古い道具の図鑑を教室に置き、いつでも見られるようにしている。今回の七輪に関しては、校内資料室及び児童が集めてきた紹介カードにもなかったが、教室に置いた図鑑によって知識として身につけた児童が多かった。

祭りについては、本校学区域近くに大きな祭りがあり、問題が本校の実態に合っていたことも成果につながっている。

6－（１）（２）「埼玉県の様子」

平成23年度埼玉県学習状況調査の反省として、県の様子についての問題、特に、荒川の位置についての理解度の低さがあげられていた。その反省を生かし、荒川、利根川、江戸川の位置関係については、特に重点的に指導をした。県内のどこを流れているかということにとどまらず、どこからどこを流れて海に注いでいるかを理解させることで、関東地方の各県の位置についての理解度も高まった。

全体としての成果と今後の課題



今年度の調査にあたっては、平成23年度埼玉県学習状況調査の結果分析から得られた本校の課題を把握し、指導改善に努めた。具体には、「方位の意味と地図作成の基本的な方法」「現在の生活と祖先の努力と工夫」「埼玉県の様子」「埼玉県と接する都道府県の位置と名称」などの問題である。授業はもとより、家庭学習でも課題の見られた内容を中心とした復習を取り入れ、反復学習の中で確かな知識・理解を身につけさせた。特に、3年生で学習した内容については、多く取り組ませた。時期として

は、4年生の1月から3月、及び、5年生の4月中旬までである。その結果、重点課題として取り組んできた内容「身近な地域」「人々の生活」「埼玉県の様子」の結果が良かった。昨年度の調査結果分析による授業改善と反復学習の成果であることを考えると、自校の実態分析を基にした指導改善の重要度が分かる。

また、今回の取組の結果、課題としていた内容の正答率は確実に上がったが、反面、グラフや表などから様々な情報を読み取り、自分の言葉で表現することが求められる問題については、課題が残った。来年度に向け、社会科はもとより算数科においてもその内容を重視し指導の改善に努める。